

(平成30年度佐竹高子研究奨励賞受賞者研究発表)RA
GE2遺伝子は1型糖尿病疾患感受性HLA遺伝子と関
連する

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-07-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 順之助, 川本, 学, 川口, 鎮司, 保科, 早里, 山中, 寿, 内潟, 安子, 馬場園, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032444

〔平成 30 年度佐竹高子研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. RAGE2 遺伝子は 1 型糖尿病疾患感受性 HLA 遺伝子と関連する

(¹糖尿病センター内科, ²膠原病リウマチ痛風センター, ³東医療センター) 三浦順之助¹・

川本 学²・川口鎮司²・保科早里¹・

山中 寿²・内潟安子^{1,3}・馬場園哲也¹

〔背景・目的〕血管障害や免疫反応に関与するパターン認識受容体 receptor for advanced glycation endproducts (RAGE) 遺伝子変異と日本人 1 型糖尿病 (T1D) 発症との関連を検討した。〔対象と方法〕対象は T1D817 名 (男性 37%), 非糖尿病群 (nDM) 887 名 (男性 59%)。Taqman SNP assay により RAGE 遺伝子変異 (SNPs) [82 G/A (RAGE1), -429T/C (RAGE2), -374T/A (RAGE3)] を決定した。次に上記 3 つの SNPs と T1D 疾患感受性 HLA DRB1-DQB1 haplotype との連鎖解析を行った。〔結果〕3 つの SNPs は両群とも Hardy-Weinberg Equilibrium を満たした。T1D の allele frequency (%) は, RAGE1 G/A : 86.9/13.1, RAGE2 T/C : 79.0/21.0, RAGE3 A/T : 76.6/23.4, nDM はそれぞれ G/A : 86.0/14.0, T/C : 92.1/7.9, A/T : 75.6/24.4 であり, 両群間に RAGE2 のみ有意差を認めた ($p=8.1 \times 10^{-26}$)。RAGE2 は DRB1-DQB1 0405-0401 とのみ連鎖不平衡を認めた。〔結論〕T1D の RAGE2 が DRB1-DQB1 0405-0401 と連鎖不平衡の状態にあり, 日本人の T1D の発症に関与する可能性が示唆された。

〔平成 30 年度中山恒明研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. 糖鎖分子マーカーを用いた胆道癌の高感度診断システムの開発

(¹消化器外科, ²筑波大学医学医療系医療科学)

樋口亮太¹・

正田純一²・谷澤武久¹・植村修一郎¹・

出雲 渉¹・松永雄太郎¹・山本雅一¹

〔背景・目的〕胆道癌の治療成績向上には早期診断が重要であるが, 既存の腫瘍マーカーは併存する炎症の影響を受け有用性に乏しい。そこで新しい糖鎖分子マーカー Mucin1-glycosylation isomer (MUC1-Gi) による胆道癌の診断精度を検討した。〔対象・方法〕2012 年 8 月から 2015 年 3 月の胆道疾患連続 216 例 [胆管癌 86 例 (肝内 2, 肝門 38, 遠位 46), 胆管良性 26, 胆嚢癌 31 例, 胆嚢良性 73 例], 年齢中央値 66 (20-91) 歳を対象とした。患者血清にて簡易測定キットで MUC1-Gi を算出し, 病変部位と進行度を考慮し診断精度を検討した。東京女子医科大学倫理委員会の承認後に行った。〔結果〕胆管病変の area under the curve (AUC) は MUC1-Gi が 0.74, CA19-9 が

0.79 であった。胆管癌 T/N 因子別の MUC1-Gi と CA19-9 による陽性率は, T1 (57% vs. 0%), T2 (67% vs. 50%), T3 (64% vs. 57%), T4 (63% vs. 81%), N0 (56% vs. 44%), N1 (62% vs. 48%), N2 (72% vs. 83%) で, MUC1-Gi の陽性率は CA19-9 より, Tis-T2 で 28%, N0 で 20% 上昇した。CA19-9 陽性/陰性別では, MUC1 診断感度 73/45%, 特異度 100/74%, 陽性的中率 100/74%, 陰性的中率 18/45% であった。胆嚢病変の AUC は MUC1-Gi (0.72) が CA19-9 (0.66) よりも高値を示したが, 症例数が十分でなく今後の再検討が必要と思われた。〔結語〕MUC1-Gi は, 胆管癌における早期病変の診断向上に寄与し, CA19-9 とのコンビネーション診断が有用である。現在他施設共同による Validation study のための検体集積中である。

〔一般演題〕

1. 医療法人社団 焔 やまと診療所での在宅研修で気づいたこと, 学んだこと

(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²内科)

本間俊佑¹・石川元直²・佐倉 宏²

当院の研修プログラムでは, 地域医療研修として医療法人社団 焔 やまと診療所での研修が必修となっている。やまと診療所は「自宅で自分らしく死ぬる, そういう世の中を作る。」を理念に掲げ, 最期まで自分らしく過ごせる自宅での在宅医療を提供している。やまと診療所では, 在宅医療を支える人材として在宅医療 PA (physician assistant) を独自に育成している。PA は医師とともに診療に同行し, 患者や家族とのコミュニケーションを通じて, その人らしい生き方を一緒に考え, 安心して生活できる環境を作るために主体的に活動している。私は医学部入学前に自宅への退院を希望するも叶わなかった終末期の患者と薬剤師として関わる機会があった。この時に自分が何もできなかった, もっと何かできたのではないかという無力感を感じ, 医師を志した。しかし, 医師となってもその答えはわからないままであった。今回, やまと診療所での診療に同行し, 医師や PA の患者との接し方を通して, 特別な医療行為を行わなくても, 患者が不安を持っていることを意識して“ただそばにいて”だけでも患者の安心につながることを学んだ。今後医師として働く上での大切なことを学んだやまと診療所での経験を, 医学部入学前の経験と対比して報告する。